

序

福生市は近年来、急激な都市化によりさまざまな変化をとげてきています。そのもっとも大きな変化は、自然環境だと思えます。昭和30年代には、田や緑や、分水の水が豊かで、春のレンゲ草、夏の緑、秋の稲穂など、豊かな緑と自然を持っていました。そんな風景の中に、なんとなく武蔵野を感じさせるものがあったと思えます。

しかしここ10年来やむをえないとはいえ都市化の進む福生から、緑と水が、失なわれてきているようです。そういう現状の中で、このたび、福生市文化財総合調査の一環として、市内の植物調査が実施され、福生市植物調査中間報告がまとめられたことは大変有意義なこととおもいます。この報告書は福生の「緑の白書」になることとおもいます。

夏の暑い時期から葉の落る11月まで、一本一本の樹木を、足と根気で調査くださった宮岡一雄先生をはじめとする調査員の先生方のご苦勞は大変なことだったとおもいます。

今後、この植物調査報告書が、多くの市民の方々、研究者、あるいは関係行政機関の人々に読まれ、中広く活用されることを期待し、同時に、福生市の文化財、自然保護の一助となれば幸いと存じあげます。

1975年3月31日

福生市教育委員会
教育長 町田 倍二